



# いずみさの昔と今 第278回

## 「日本の食卓を支えた道具」

前号に引き続き、市制施行70周年記念冬季企画展「くらしの道具展」に関連し、「ちゃぶ台」について紹介をします。

昭和のくらしといえば、丸いちゃぶ台を家族で囲んでの食事風景を思い浮かべた人は多いのではないだろうか。昭和の代名詞とも言っても過言ではない「ちゃぶ台」ですが、実はその誕生は比較的最近でした。諸説ありますが、ちゃぶ台はもともと地域によって「シツプク台」や「シツポク台」と呼ばれ、卓袱（しつぷく）料理という中国料理を食べる際に使用されていたものがちゃぶ台の始まりとされています。シツプク台は椅子を使ったテーブル式の机でしたが、畳敷きの多かった日本に合わせて脚の短い座卓に改良されました。ちゃぶ台には円形や方形、脚は固定式と折り畳み式があります。折り畳み式のちゃぶ台には、使用しない際に脚を折り畳んで収納するなどの利点があることから、部屋の狭い家庭が多い日本では広く受け入れられました。

ちゃぶ台が使用される以前の日本では、一つの食卓をみんなで囲んで食事をするのは少なく、個人に一つずつ「膳（ぜん）」や「箱膳（はこぜん）」と呼ばれる一人用の台を使用していました。箱膳は文字通り箱の形をした膳で、個々の膳の中には個人専用の箸や茶碗、汁椀に漬物皿などの小皿の一式を収めました。食事の際には上蓋を裏返して箱の上に置き、その上蓋に食器をのせて食事をしました。これが明治に入り「一つの食卓をみんなで囲む」といった西洋風の文化がもたらされると、明治三十年代頃には都市部を中心にちゃぶ台は広まりました。さらに箱膳が廃止されちゃぶ台にとって代わられていった理由に、「不衛生」といった理由があげられました。箱膳で食事をしていた際には、食べ終わった食器類に茶、または白湯（さゆ）を注いで飲み干し、そのまま箱膳に伏せて箱膳ごと収納していました。食器類を洗うのは1週間に1回か1ヵ月に2、3回程度であり、天気の良い日に箱膳と食器類を洗い、天日干しにしました。これまで一般的であった箱膳を嫌がったのは軍隊より帰った男たちで、軍隊では食事

をするごとに食器を洗っていたことから、食事ごとに洗わない箱膳が「不衛生なもの」とされ、これを機に箱膳からちゃぶ台へと移行した家庭も少なくありませんでした。

今回取り上げた「ちゃぶ台」のほか、当時の人々のくらしを垣間見ることのできる冬季企画展「くらしの道具展」は、3月24日(日)までレイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさのにて開催しています。



▲箱膳（当館蔵）

レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの  
☎469-7140 Fax469-7141  
休館日 月曜日、祝日（祝日が月曜日の場合は月曜日と火曜日）が休館）  
開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）  
入館料 無料

消費生活センターだより  
見守りリレー  
相談はお早めにセンターへ!!  
相談受付 午前9時～午後4時30分  
南海線「泉佐野」駅前 ☎469-2240

### 国民生活センターを名乗る 偽電話に注意!

「など」と話し、最終的にお金をだまし取る詐欺が後を絶ちません。電話に出してしまうと執拗に不安を煽るので、早く切るようにしましょう。留守番電話機能を利用して、必要な相手だけに架け直す方法が有効です。お金を渡すと取り戻す事は極めて困難です。

国民生活センターは法律によってつくられた消費者庁所管の独立行政法人です。暮らしをより良くするために各都道府県や市町村の消費生活センターと協力して情報を提供しています。各消費生活センターが行う相談業務の支援もしています。国民生活センターから個人宅に電話を架ける事は絶対にありません。

同様に実在する「国税庁」「日本年金機構」などの公的機関を名乗る電話は全て詐欺です。統計を取るかのように家族構成や大まかな貯金金額を聞くような話には絶対に応じないことです。不審な電話は110番通報し、家族や消費生活センターに相談しましょう。

相談は、  
早めに消費生活センターへ

【事例】  
国民生活センターと名乗る人から電話が入った。「あなたの個人情報が出ています。3つの会社にあなたの名前が掲載されている。削除しますか？」と聞かれたので削除を依頼した。「1つだけ削除が出来なかった。名義を変更しなければならぬ」と言われ、名義を貸してくれるというNPO法人に所属する人を紹介された。後日その人から「震災関連の除染機械を名義変更前のあなたの名前で購入してしまっただけです。このままお金を払わないとあなたも警察に捕まってしまう」と言われお金を要求された。

【解説】  
一昨年から国民生活センターをかたり「個人情報が出ています」